

## 進捗状況の概要（1ページ以内）

**【学内の実施体制】**

本学は「教職員がフラットに参画する大学運営（教職一体ガバナンス）」を掲げており、大学の方向性を左右するような最重要事項は、全教職員が参加するスタッフ会議で話し合いを行っている。本事業も学長を委員長とする AP 推進委員会が事業方針を決定し、スタッフ会議にて方針の承認を得て、各論の推進を AP ワーキンググループ（APWG）が行っている。体制としては計画通りであり、APWG 内の AP 事務局スタッフが各論の取組を行っている。

**【中心となる取組】**

「学修の質保証の基盤整備」として、学修成果の記録をエビデンスとして成長を自己評価することができる本学独自のポートフォリオシステム KCG（Kyoai Career Gate）を継続して稼働した。また、学修支援の充実の一環であるライティングピアチューター制度を前年度同様運用した。

「学修保証システムを構築すること」として、外部評価（JUES・PROG）の実施、授業アンケートや外部評価等データ収集、KCG を活用したリフレクションの実施、収集したデータの分析による成果と改善案の検討、高大接続をテーマとしたフォーラムと FD・SD の実施、評価委員会の開催、AP の取組を行う他大学のセミナー等へ参加した。

**【取組の成果】**

「学修の質保証の基盤整備」として KCG を稼働させたことで、授業や学年ごとのリフレクションの場として学生と教員が利用し、学びの蓄積を進めている。これによって学生が定期的に振り返りを行い、自己評価の精度を上げることが可能になっている。また、図書館でのライティングピアチューター制度による初年次教育の強化支援を提供することで、主体的にレポート作成に取り組む学生が出てきており、初年度 99 人の利用者が本年度は 174 人と学内浸透が進み徐々に利用者が増えている。

「学修保証システムを構築すること」として、外部評価（JUES・PROG）を実施したことで学生の汎用的能力データを得ることができた。学生も自身の能力を把握することは今後の学修のベンチマークとして理解が深まっている。また、授業アンケートの実施により、各授業の授業外学習時間や「共愛 12 の力（学修成果指標）」の整合性などが調査され、有用性と課題が明らかになった。

および、2 年生以上の学生に対し、4 月に教員参加のリフレクションの時間を設定し、前年度 1 年間の振り返りと自己評価を義務づけた結果、学生は自己理解と自己分析を深め、目標をもって学修に取り組むことができた。KCG 導入により収集した自己評価データから次年度以降学生に提供する学修支援の傾向を検討することが可能となったことも成果といえる。

**【補助期間終了後の継続発展に向けた取組】**

本事業採択後に導入した KCG は学生の主体的学修を支援するツールであり、補助期間終了後も継続してこそ意味があるものである。現在、この KCG の利用を促進するため、AP 事務局スタッフが教員に KCG の効果的な使い方、就活等での学生の利用シーン等を説いている。徐々に教員の意識も高まってきており、積極的に自身のゼミ生等の KCG 情報を閲覧し学生にアドバイスしており、補助期間終了後も継続的に KCG を運用できる素地が出来つつある。

**【学内外への波及効果】**

対学内では新入生・在校生向けの年度初めのオリエンテーションにて、KCG の効果的な利用方法等のレクチャーを実施し利用促進を図った。また、対外的には 9 月に高大接続フォーラムを実施し、基調講演と高校・大学での学びの接続についてのパネルセッションを展開し、105 名の参加があった。さらに広報物として動画を 3 本作成し、AL の周知を進めるため新入生・高校生・高校教員向けに本学の AL の取り組みを紹介し、AL がカリキュラムに位置づけられることの重要性を解説した。同時に AL を効果的に活用している特徴的なゼミのインタビューなど載せ、本学 HP 等で配信した。